

◆ 今週のコメント

- 新型コロナウイルス感染症の報告が1,956例(男性1,025例(10歳代135例, 20歳代311例, 30歳代152例, 40歳代166例, 50歳代139例, 60歳代47例, 70歳代16例, 80歳代7例, 90歳代5例, 年齢非公開47例), 女性859例(10歳代130例, 20歳代225例, 30歳代147例, 40歳代131例, 50歳代98例, 60歳代30例, 70歳代21例, 80歳代20例, 90歳代8例, 年齢非公開49例), 性別及び年齢非公開72例)あり, 本年の累積報告数は14,029例になりました。
本感染症の最新の動向及び詳細については下記URLをご参照ください。
○新型コロナウイルス感染症 最新の動向
https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000268303.html
- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が1例(20歳代男性)あり, 症状は腹痛, 水様性下痢, 血便等です。感染地域は国内で, 感染経路は経口です。本年の累積報告数は25例となりました。
発生状況の週別推移や血清型別患者数などの詳しい情報については, 下記URLを御参照ください。
○腸管出血性大腸菌感染症発生状況(衛生環境研究所ホームページ)
https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000068305.html
- 侵襲性肺炎球菌感染症の報告が1例(50歳代女性)あり, 本年の累積報告数は12例となりました。
- 梅毒の報告が3例(30歳代, 50歳代, 70歳代男性)(第32週追加報告分含む)ありました。いずれも感染経路は性的接触です。本年の累積報告数は43例となりました。
- RSウイルス感染症の定点当たり報告数は0.21で, 前週の1.07から大きく減少して過去5年平均値を下回りました。全国では2.00で, 第28週の5.99をピークに5週連続で急激に減少しています。過去10年の動向では, RSウイルス感染症は1年間に大きなピークが複数回見られたことはなく, 現在の減少の原因もはっきりとはわかりませんが, 過去においては夏から秋, あるいは冬に流行が見られることが多いため, 今後も発生状況に注意が必要です。
- RSウイルス感染症を除く小児科定点把握感染症の推移は, 前週までと大きな変化はなく, 京都市で流行の兆候の見られる感染症はありません。

◆ 今週のトピックス: <後天性免疫不全症候群>

京都市内の医療機関から, 令和3年1月から6月末までの間, エイズ患者・HIV感染者ともに新たな報告はありませんでした。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- 二類:結核 5例(肺結核 なし, その他結核 1例, 潜在性結核感染者 4例)うち喀痰塗抹陽性 なし)
【1月以降の累積報告数 160例(肺結核 57例, その他結核 43例, 潜在性結核感染者 60例)うち喀痰塗抹陽性 25例】
- 新型コロナウイルス感染症1,956例【1月以降の累積報告数14,029例】
- 三類:腸管出血性大腸菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 25例】
- 五類:侵襲性肺炎球菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 12例】
- 五類:梅毒 3例【1月以降の累積報告数 43例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

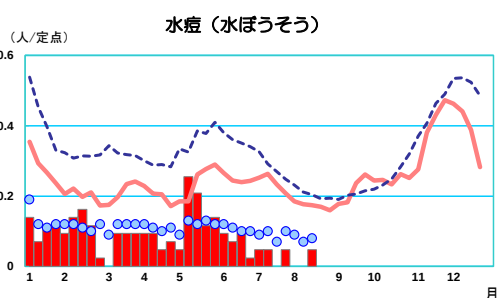
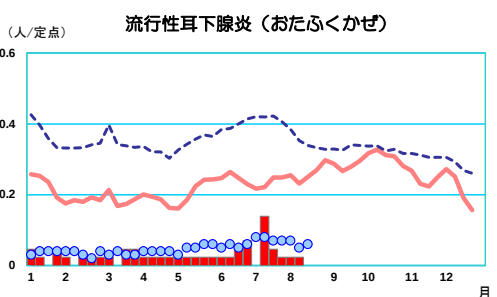
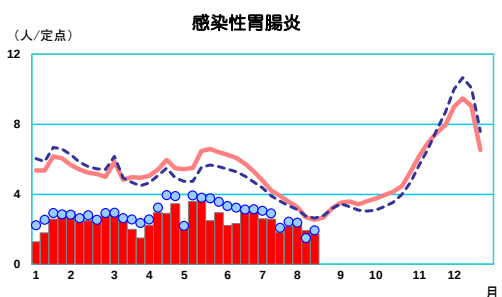
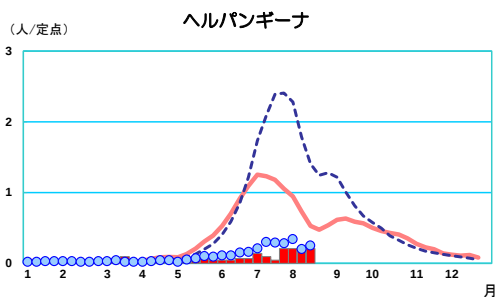
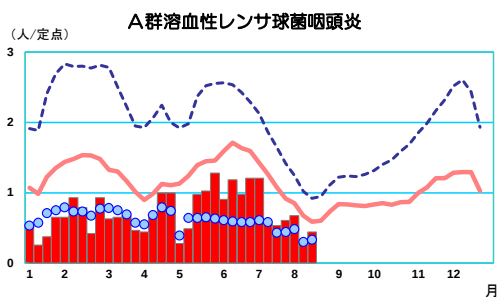
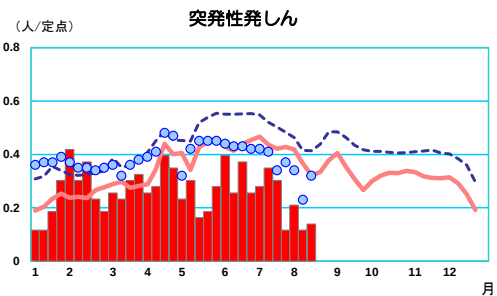
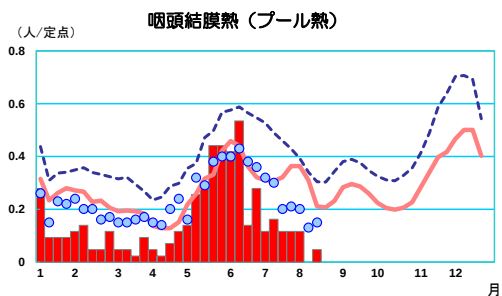
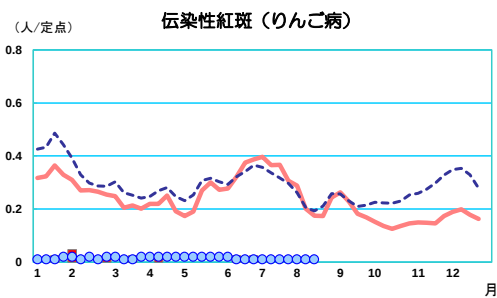
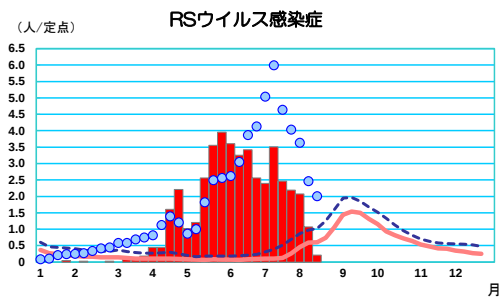
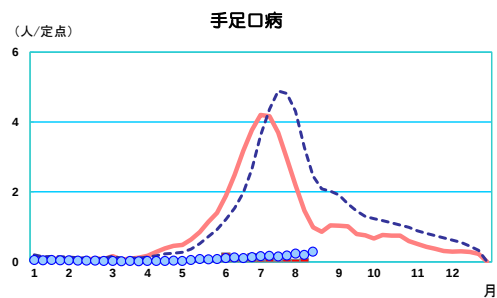
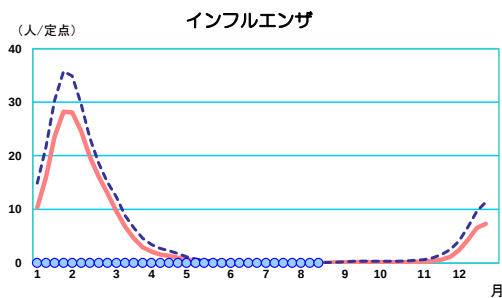
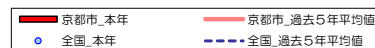
定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ	インフルエンザ	0. 00	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	1. 72	74
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0. 44	19
	③ RSウイルス感染症	0. 21	9
	③ ヘルパンギーナ	0. 21	9
	⑤ 突発性発しん	0. 14	6
眼科	流行性角結膜炎	0. 10	1

【次ページ以降の主な内容】

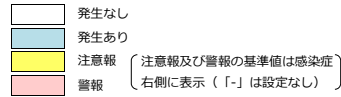
発生状況の概況グラフ / 発生状況地図 / 今週のトピックス: <後天性免疫不全症候群>
付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注) 京都市のデータは, 2021年8月25日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。
また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。
※ 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

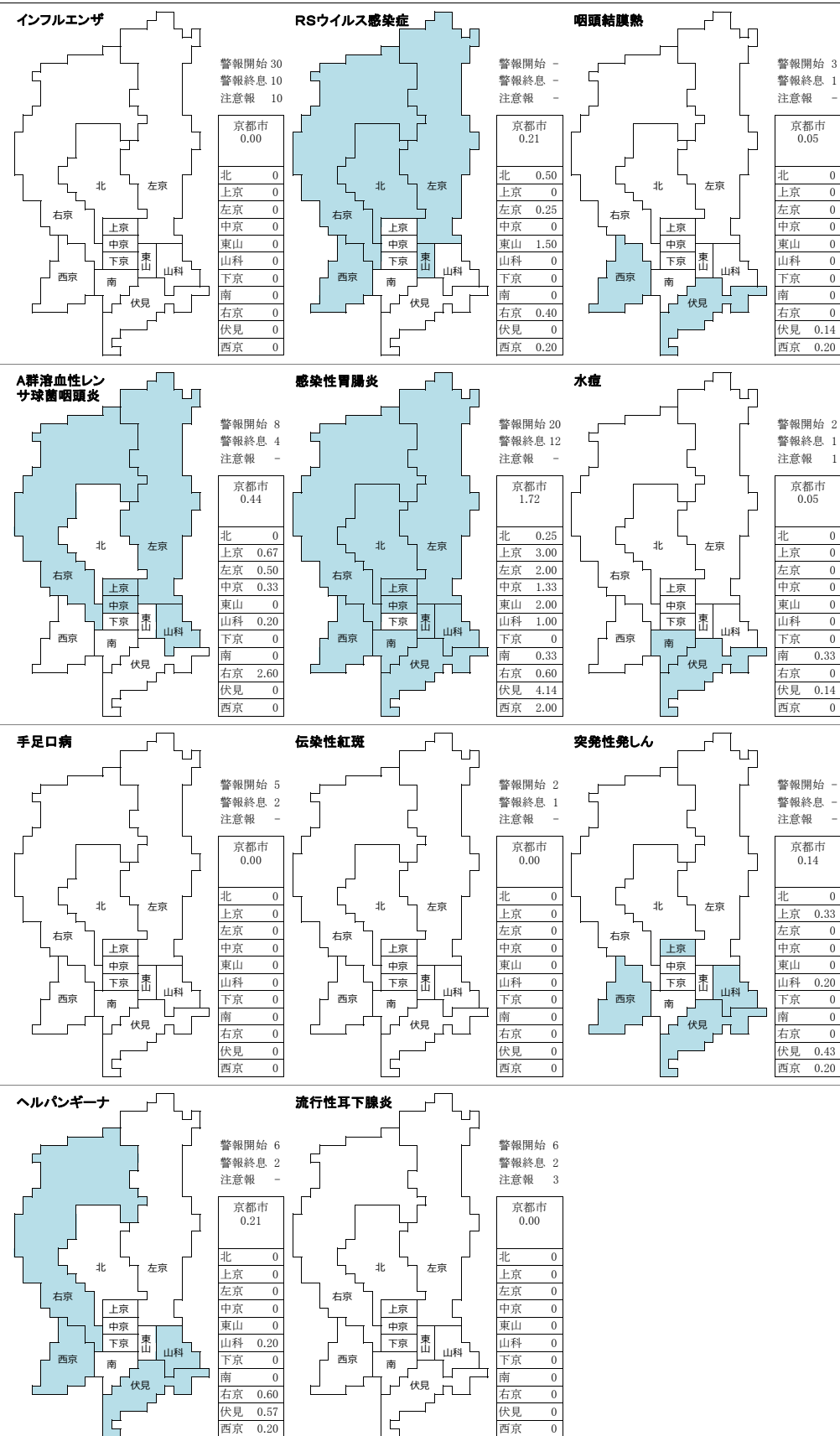
インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（2021年）



インフルエンザ及び小児感染症の発生状況地図【2021年 第33週】



※定点医療機関の所在地に基づいた集計結果となっています。
 したがって、定点当たり報告数は医療機関の「立地条件」や
 「規模の大小の影響を受ける場合がありますので、ご注意ください。



第33週(8月16日～8月22日)トピックス: <後天性免疫不全症候群>

京都市では、半期ごとのエイズ患者*・HIV感染者**数を集計し公表しています。京都市内の医療機関から、令和3年1月から6月末までの間、エイズ患者・HIV感染者ともに新たな報告はありませんでした(令和3年8月31日公表, 下記URL参照)。全国でも報告数は少ない状況ですが、新型コロナウイルス流行拡大による検査控えや検査の中止などの影響も考えられ、今後の発生動向に注意する必要があります。

昭和62年以降の累積報告数は368例(エイズ患者 124例(33.7%), HIV感染者244例(66.3%))で、男女別では男性が90%以上となっています(表1)。推定感染経路では、性行為感染が最も多く、284例で全体の77.2%を占めています。中でも同性間の性行為感染が、171例で全体の46.5%と目立ちますが、異性間も102例(27.7%)で決して少ないわけではありません(図1)。診断時の年齢をみると、30歳代が最も多く報告されており(139例)、20～30歳代の比較的若い年代で約6割を占めています(図2)。

感染予防として、不特定多数のパートナーとの性交渉は避け、性的接触の際にはコンドームを正しく使用しましょう。

近年のHIV感染症の薬剤と治療方法の進歩により、「HIV感染＝死」ではなくなりました。継続的な治療は必要ですが、感染後、早期に発見し、適切な治療を行えば、免疫力を落とすことなく、通常の生活が送れるようになりました。さらに、二次感染の予防にも繋がります。感染初期は自覚症状がない場合もあり、検査を受けない限り感染に気付けないことがあります。京都市では、無料・匿名で検査を行っています。感染機会があったなど心配な方は新型コロナウイルス感染症流行時であっても積極的に検査を受けましょう。詳細については、以下のURLを参照してください。

*エイズ患者 : HIV(ヒト免疫不全ウイルス)に感染し免疫機能が低下したことにより、感染症や悪性腫瘍などの指定疾患を発症した状態と診断されたもの(すでにHIV感染者として報告されているものがエイズを発症する等病状に変化を生じた場合は除く。)

** HIV感染者 : HIVに感染し、無症候性キャリアとして報告されたもの、または何らかの症状はあるがエイズの診断基準を満たさないもの

【エイズ患者・HIV(エイズウイルス)感染者数について(京都市広報資料)】

○<http://www.city.kyoto.lg.jp/menu3/category/36-1-0-0-0-0-0-0-0-0-0.html>

【京都市のHIV検査について】

○<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000271215.html>

(新型コロナウイルス感染症の流行状況等を踏まえ、現在は一部の検査を見合わせ、全て予約制で検査を実施しています。)(予約制でも無料・匿名で、プライバシーは守られます。)

表1 年次別報告数の推移(京都市)

報告年	総数	エイズ患者	HIV感染者	男	女
昭和62年～平成28年	302	98	204	280	22
平成29年	19	9	10	18	1
平成30年	18	6	12	17	1
令和元年	15	3	12	14	1
令和2年	14	8	6	14	0
令和3年1月～6月	0	0	0	0	0
総 計	368	124	244	343	25

図1 京都市の推定感染経路別の報告割合(昭和62年～令和3年6月)

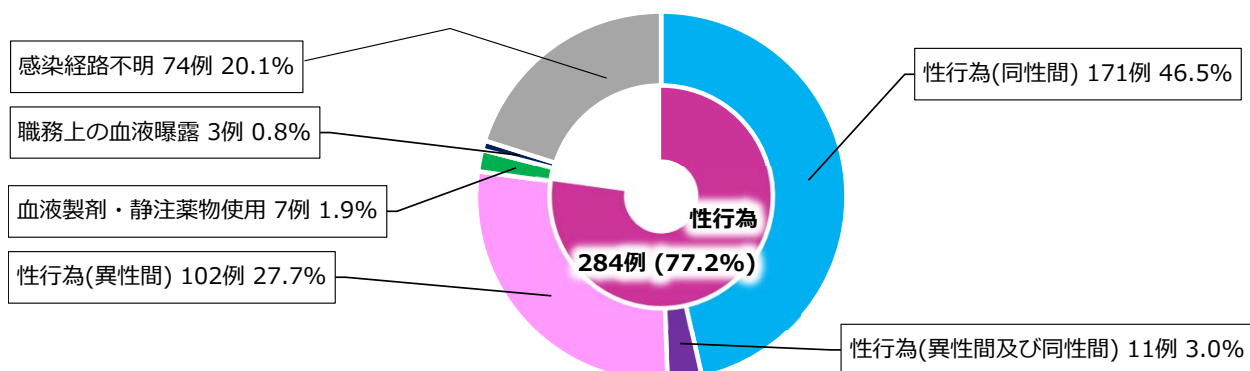
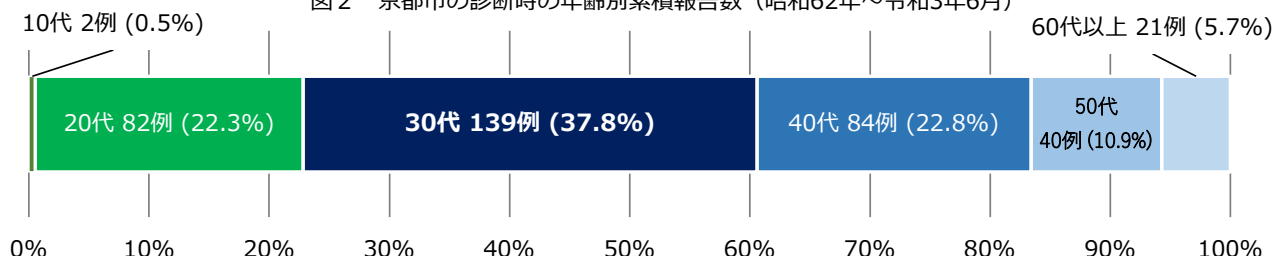


図2 京都市の診断時の年齢別累積報告数(昭和62年～令和3年6月)



T3201

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2021年第33週

疾病,行政区別報告数

2021年8月16日～2021年8月22日

データ入手日:2021年8月25日

	インフル エンザ（※1）	R Sウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭A群 溶血性レンサ球菌咽 炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎（※2）	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎（※3）	感染性胃腸炎（※4）
男女合計																		
北	-	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-					
上京	-	-	-	2	9	-	-	-	1	-	-	-	-					
左京	-	1	-	2	8	-	-	-	-	-	-	-	-					
中京	-	-	-	1	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	3	-	-	4	-	-	-	-	-	-							
山科	-	-	-	1	5	-	-	-	1	1	-	-	-					
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-							
南	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-							
右京	-	2	-	13	3	-	-	-	-	3	-	-	-					
伏見	-	-	1	-	29	1	-	-	3	4	-	-	-					
西京	-	1	1	-	10	-	-	-	1	1	-	-	1					
京都市計	-	9	2	19	74	2	-	-	6	9	-	-	1	-	-	-	-	-

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフル エンザ（※1）	R Sウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭A群 溶血性レンサ球菌咽 炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎（※2）	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎（※3）	感染性胃腸炎（※4）
男女合計																		
北	-	0.50	-	-	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-					
上京	-	-	-	0.67	3.00	-	-	-	0.33	-	-	-	-					
左京	-	0.25	-	0.50	2.00	-	-	-	-	-	-	-	-					
中京	-	-	-	0.33	1.33	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	1.50	-	-	2.00	-	-	-	-	-	-							
山科	-	-	-	0.20	1.00	-	-	-	0.20	0.20	-	-	-					
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-							
南	-	-	-	-	0.33	0.33	-	-	-	-	-							
右京	-	0.40	-	2.60	0.60	-	-	-	-	0.60	-	-	-					
伏見	-	-	0.14	-	4.14	0.14	-	-	0.43	0.57	-	-	-					
西京	-	0.20	0.20	-	2.00	-	-	-	0.20	0.20	-	-	1.00					
京都市計	-	0.21	0.05	0.44	1.72	0.05	-	-	0.14	0.21	-	-	0.10	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3202

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2021年第33週

年齢階級, 疾病別報告数

2021年8月16日～2021年8月22日

データ入手日:2021年8月25日

京都市	年齢1 年齢2 年齢3 年齢4	総数 総数 総数 総数	～5ヶ月 ～5ヶ月 ～5ヶ月 0歳	～11ヶ月 ～11ヶ月 ～11ヶ月 1歳～	1歳 1歳 1歳 5歳～	2歳 2歳 2歳 10歳～	3歳 3歳 3歳 15歳～	4歳 4歳 4歳 20歳～	5歳 5歳 5歳 25歳～	6歳 6歳 6歳 30歳～	7歳 7歳 7歳 35歳～	8歳 8歳 8歳 40歳～	9歳 9歳 9歳 45歳～	10歳～ 10歳～ 10歳～ 50歳～	15歳～ 15歳～ 15歳～ 55歳～	20歳～ 20歳～ 20歳以上 60歳～	30歳～ 30歳～ 30歳～ 65歳～	40歳～ 40歳～ 40歳～ 70歳以上	50歳～ 50歳～ 50歳～ 50歳～	60歳～ 60歳～ 60歳～ 60歳～	70歳～ 70歳以上 70歳～ 70歳以上	80歳以上
男女合計																						
インフルエンザ (※1)	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	年齢3	9	1	1	2	4	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽 頭 結 膜 熱		2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		19	1	-	-	4	3	3	1	-	3	-	-	-	1	3	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		74	1	6	19	9	2	3	6	4	3	1	1	10	3	6	-	-	-	-	-	-
水 痘		2	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手 足 口 病		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝 染 性 紅 斑		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		6	-	2	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		9	-	2	1	3	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性角結膜炎		1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	
細菌性髄膜炎 (※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
クラミジア肺炎 (※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎 (※4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳－	15歳－	20歳－	30歳－	40歳－	50歳－	60歳－	70歳－	80歳以上
	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳－	15歳－	20歳－	30歳－	40歳－	50歳－	60歳－	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳－	15歳－	20歳以上						
男女合計	年齢4	総数	0歳	1歳－	5歳－	10歳－	15歳－	20歳－	25歳－	30歳－	35歳－	40歳－	45歳－	50歳－	55歳－	60歳－	65歳－	70歳以上				
インフルエンザ ^{※1)}	年齢1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
RSウイルス感染症	年齢3	0.21	0.02	0.02	0.05	0.09	0.02	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
咽 頭 結 膜 熱		0.05	－	－	0.02	－	－	－	－	－	－	－	－	0.02	－	－						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.44	0.02	－	－	0.09	0.07	0.07	0.02	－	0.07	－	－	－	0.02	0.07						
感染性胃腸炎		1.72	0.02	0.14	0.44	0.21	0.05	0.07	0.14	0.09	0.07	0.02	0.02	0.23	0.07	0.14						
水 痘		0.05	－	－	0.02	－	－	－	－	－	0.02	－	－	－	－	－						
手 足 口 病		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
伝 染 性 紅 斑		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
突発性発しん		0.14	－	0.05	0.07	0.02	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
ヘルパンギーナ		0.21	－	0.05	0.02	0.07	0.05	－	－	－	－	－	－	－	0.02	－	－					
流行性耳下腺炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－					
急性出血性結膜炎	年齢2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
流行性角結膜炎		0.10	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.10	－	－	－	－	－	
細菌性髄膜炎 ^{※2)}	年齢4	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
無菌性髄膜炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
マイコプラズマ肺炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
クラミジア肺炎 ^{※3)}		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
感染性胃腸炎 ^{※4)}		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2021年第33週

週, 疾病別報告数

データ入手日:2021年8月25日

京都市	男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)		－	－	－	－	－	－
RSウイルス感染症		151	106	94	89	46	9
咽 頭 結 膜 熱		7	5	5	5	－	2
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		24	23	26	29	12	19
感染性胃腸炎		111	78	93	98	83	74
水 痘		2	－	2	－	－	2
手 足 口 病		4	1	3	3	4	－
伝 染 性 紅 斑		－	－	－	－	－	－
突発性発しん		15	13	5	9	5	6
ヘルパンギーナ		4	2	9	9	8	9
流行性耳下腺炎		6	2	1	1	1	－
急性出血性結膜炎		－	－	－	－	－	－
流行性角結膜炎		2	－	3	2	1	1
細菌性髄膜炎 (※2)		－	－	－	－	－	－
無菌性髄膜炎		－	－	－	－	－	－
マイコプラズマ肺炎		－	－	－	－	－	－
クラミジア肺炎 (※3)		－	－	－	－	－	－
感染性胃腸炎 (※4)		－	－	－	－	－	－
合 計		326	230	241	245	160	122

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市	男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)		－	－	－	－	－	－
RSウイルス感染症		3.51	2.47	2.19	2.07	1.07	0.21
咽 頭 結 膜 熱		0.16	0.12	0.12	0.12	－	0.05
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.56	0.53	0.60	0.67	0.28	0.44
感染性胃腸炎		2.58	1.81	2.16	2.28	1.93	1.72
水 痘		0.05	－	0.05	－	－	0.05
手 足 口 病		0.09	0.02	0.07	0.07	0.09	－
伝 染 性 紅 斑		－	－	－	－	－	－
突発性発しん		0.35	0.30	0.12	0.21	0.12	0.14
ヘルパンギーナ		0.09	0.05	0.21	0.21	0.19	0.21
流行性耳下腺炎		0.14	0.05	0.02	0.02	0.02	－
急性出血性結膜炎		－	－	－	－	－	－
流行性角結膜炎		0.20	－	0.30	0.20	0.10	0.10
細菌性髄膜炎 (※2)		－	－	－	－	－	－
無菌性髄膜炎		－	－	－	－	－	－
マイコプラズマ肺炎		－	－	－	－	－	－
クラミジア肺炎 (※3)		－	－	－	－	－	－
感染性胃腸炎 (※4)		－	－	－	－	－	－
合 計		7.73	5.35	5.83	5.85	3.80	2.91

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。